

《保健科学研究科博士前期課程 保健学専攻》

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

・ディプロマ・ポリシーをさらに細分化している場合には、それを項目として用いることができる。

科目名	ディプロマ・ポリシー	主要授業科目	【1. 高度な理解力と幅広い知識】	【2. 国際的なコミュニケーション能力と協働力】	【3. 豊かな人間力と高い倫理観】	【4. 実践的な研究能力】	科目の教育目標
			専門的知識に基づいて、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。	最先端の専門的スキルを有し、チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに、国際化時代のグローバル・リーダー（対話・情報・科学等）を修得している。	豊かな人間性を持った社会性のある医療人として、生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し、豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。	医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し、課題の探求と、創造的、開発的な実践的研究能力を修得している。	
全専攻系共通カリキュラム科目	生命倫理概論		○		◎	○	生命倫理学、臨床倫理学、社会倫理、個人情報保護、実験動物愛護等について概説できる。
	臨床心理学		◎		○	○	臨床心理学の基礎的理論・技法および今日の課題を説明できる。
	社会医学・疫学・医学統計概論		◎	○		○	社会医学・薬学・歯学等に関して、授業目的に示した講義内容の理解が深まることを目標にする。
	英語論文作成法		○	◎		○	21世紀に医学、歯学、薬学、栄養学、保健学の各分野で活躍する人材は英語が堪能であることが要求される。本授業ではこれらの領域で用いられる独特の英語表現法に関わる基本的知識を修得することを目的とする。
	宇宙と栄養・医学概論		◎		○	○	宇宙栄養学・医学の分野において、宇宙実験の申請に必要な知識や問題点が理解できる。
	生命科学の研究手法		◎			◎	医科学・生命科学に必須の初歩的技術が理解できる。
	研究方法論		○		○	◎	報告された臨床研究結果の批判的解釈ができる。臨床第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ相試験のデザインについて理解し、プロトコロールの立案と遂行に關与できる。
	がんチーム医療実習		○	◎	○		がん医療にかかわる他職種との役割を理解できる。患者のケアに関して他職種との意見交換・討論ができる。他職種に専門的な助言ができる。チームとして行動できる。
	悪性腫瘍の管理と治療		◎	○	○	○	がんの検査・診断法、手術療法・放射線療法・化学療法などの治療法、さらに支持療法、緩和医療の state of the art について理解するとともに、がんの心理的・社会的側面についても理解を深める。
	医療情報学		○	◎	○	○	情報化とは何か、病院情報システムの概要、ならびにデータ解析の手法である「Data Mining」について理解する。文献、オンラインデータベース、インターネットを通じてがんの臨床と研究に関する情報検索と収集ができる。EBM、クリニカルパスの方法や意義について理解する。
	医療対話学(コミュニケーションスキル)		○	◎	○		がん患者と家族、医療チーム内スタッフとの良好なコミュニケーションを確立できる。がん患者と家族に好ましくない情報をスムーズに告知でき、必要に応じてカウンセリング、スピリチュアルケアを提供できる。
	医療倫理と法律的・経済的問題		○		◎		がん医療と臨床研究の遂行に必要な医療倫理、法律的問題、社会的・経済的にについて理解する。
	医療系分野における知的財産学概論		○		◎	◎	1. 知的財産制度の全体像を理解する。 2. 研究活動や医療に必要な知的財産制度の内容を理解する。 3. 社会人として活動するに際して役に立つ知的財産制度の内容を理解する。
生命科学コミュニケーション特論		◎	◎			学生が英語を介して、生命科学における多様な知識を得ること、それら理解し、簡潔にまとめて発表し、科学的な議論を行うスキルを向上させる。	
各専攻系間の共通カリキュラム科目	ヒューマンサイエンス(形態と機能)		◎		○	○	1. 科学的、論理的な理解、説明ができる。 2. 細胞の基本構造と機能を説明できる。 3. 遺伝子情報の仕組みを理解できる。 4. 膜輸送、情報伝達の仕組みを説明できる。
	微生物・免疫学実習		◎			○	微生物学及び免疫学の基本的な手技を習得する。
	臨床医科学概論		◎			○	循環器、呼吸器、消化器、神経・筋、内分泌・代謝、血液の各臨床領域における代表的な疾病につき、発生機構および原因となる遺伝子などの異常、そして各々の疾患の病態生理を理解させ、最新の診断および治療法の理論と実践を学ばせる。
保健学専攻共通科目	チーム医療特論		○	○	○	○	他の専門職種への理解を深める。コミュニケーションの重要性を理解する。自らの職種の役割、責任を自覚する。
	保健学特論		◎				保健科学の理念や研究課題について理解する。
	臨床腫瘍学概論	○	○			◎	がんの病態生理、がん治療について理解を深めると共に、がん医療に関する社会的・倫理的課題について考察を深める。
	国際医療実践英語演習			◎			The aim is to learn English appropriate for practicing international health care activities.
	脳と神経学概論		◎	○	◎	○	脳神経科外疾患と神経内科疾患について、診断・検査・治療について最新の動向を理解し看護に役立てる。
	脳と神経学評価方法論		◎	○	○	○	脳神経の複雑なメカニズムとその病態の身体・心理社会面を含めた包括的アセスメント・評価や査定に関して、理解を深め、看護実践の場で活用できる。
		看護研究方法論	○	◎	◎	◎	看護研究の必要性和意義が説明できる。 研究における倫理的配慮について説明できる。 系統的文献検索ができる。 研究論文のクリティークを行うことができる。 調査研究に関する研究方法について説明できる。 実験研究に関する研究方法について説明できる。 質的研究に関する研究方法について説明できる。 研究計画書の基本的な構成とその重要性が説明できる。 研究成果の公表と効果的なプレゼン方法について説明できる。

科目名		ディプロマ・ポリシー	主要授業科目	【1. 高度な理解力と幅広い知識】	【2. 国際的なコミュニケーション能力と協働力】	【3. 豊かな人間性と高い倫理観】	【4. 実践的な研究能力】	科目の教育目標	
				専門的知識に基づいて、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。	最先端の専門的技術を有し、チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに、国際化時代のグローバル・リテラシー(対話・情報・科学等)を修得している。	豊かな人間性を持った社会性のある医療人として、生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し、豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。	医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し、課題の探求と、創造的・開発的な実践的研究能力を修得している。		
指定科目A	看護学領域	看護教育学	○	◎		○	○	看護教育・継続教育の歴史の変遷を理解する 専門看護師としての看護現場の質を高めるための継続教育の在り方を考察する 専門看護師に期待される看護教育力を養う	
		看護倫理	○	◎	○	◎	○	看護倫理に関する重要な用語や概念に関して理解する。看護実践で展開されている倫理的問題について理解し、看護者としての対応について学ぶ。看護者として医療現場における倫理的問題に関する感受性を高める。	
		看護管理学		◎			○	○	高度実践看護師に期待されている臨床現場の変革者として、また保健医療福祉に携わる人々の間の調整者として役割を果たせるよう、看護管理についての基本と実際について講義、ディスカッション、演習により学習を深める。
		コンサルテーション論	○	◎			◎		1.コンサルテーションの概念を理解する 2.専門看護師が行うコンサルテーションの目的と意義について理解する 3.コンサルテーション展開のプロセスを理解する 4.コンサルテーションの展開に活用するカウンセリング技法を使うようになる 5.専門看護師によるコンサルテーションの実際事例から、プロセスおよび成果の分析・評価ができる 6.専門看護師によるコンサルテーションの意義を考察すると共に、自己の課題を明確にできる
		看護実証研究論		◎	○		○	◎	調査や実験に基づく分析結果を読みとるために必要な統計学の基礎的な知識を講義する。また履修者が自分で分析を行おうと考えている調査や実験の仮説を考慮して、基本的・応用的な分析手法を扱う。
		看護学指導演習		○			○		1.看護基礎教育のカリキュラムについて理解できる 2.学生に看護の知識・技術・ケア態度を効果的に指導する教育技法について説明できる 3.臨床実習において主体的な学習を支援する指導ができる 4.臨床実習を効果的に進めるための人的・物的な学習環境調整ができる 5.看護の教育研究者としての自らの演習をリフレクションし、自己の課題を明確にできる 6.看護基礎教育における今日的な課題と展望について考察することができる
指定科目B	看護学領域	ヘルスアセスメント特論	○	○			◎	身体状態を査定し、適切な臨床判断を行うために必要な知識と技術について学修を深め、高度なアセスメント能力を習得する。	
		病態生理学特論	○	◎	◎			エビデンスに基づいたより高度な看護実践ができるよう対象の病態生理学的変化を解釈、判断するために必要な知識と技術を身につける。	
		臨床薬理学特論	○	◎	◎			必要な臨床薬理学の基本を学ぶ、薬剤使用の判断、投与後の患者のモニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力の向上を図るための知識・技術について学修し、緊急応用処置や症状調整、慢性疾患管理などを中心とした臨床現場で適正かつ効果的に薬を使用・管理する能力を身につける。	
		看護技術学特論Ⅰ	○	○	○	○	○	1.看護の知識開発についての看護教育、研究実践における哲学や理論の影響を説明できる。 2.様々な教育、研究、実践の課題について、看護理論の影響を議論できる。 3.看護学の哲学的な価値論(価値)を説明できる。	
		看護技術学特論Ⅱ	○	○	○	○	○	1.学問としての看護学の知識、学問と専門職の特徴に基づく専門職について説明できる。 2.理論開発と看護のパラダイムとメタパラダイムの影響について説明できる。 3.看護学と看護の歴史的発展について検討できる。	
		看護技術学演習	○	○	○	○	○	○	1.大学院生の関心領域を中心に、看護技術学におけるさまざまな課題に焦点をあて文献検討ができる。 2.看護の質を高めるための看護技術の諸要素を研究を通して理解できる。
		看護教育学特論Ⅰ	○	◎		○	○	○	1.看護教育に関連する諸理論が理解できる。 2.看護学生の学習者としての特徴が理解できる。 3.看護教育の現状と課題について考察する。
		看護教育学特論Ⅱ	○	◎		○	○	○	生涯学習に関連する理論を知る。 生涯学習における学習者の特徴を理解する。 看護における生涯学習の意義について理解する。 看護における生涯学習の状況と課題を理解する。 効果的な看護基礎教育の方法を検討する。 効果的な看護の卒後教育の方法を検討する。
		看護教育学演習	○	◎		○	○	◎	看護研究に関する文献を批判的に検討し、問題点や課題を明らかにする。 自らの研究テーマに関連するレビューを作成する。
		看護アウトカム管理学特論Ⅰ	○	○	○	○	○	○	1.文献検討の方法が理解できる 2.専門職としての看護について文献を通して理解できる 3.学問としての看護学について文献を通して理解できる 4.効果的なプレゼンテーションの方法について理解できる 5.効果的なプレゼンテーションを作成できる 6.科学論文を検査できる 7.量的研究の特徴について理解できる 8.質的研究の特徴について理解できる 9.先行研究のレビューの方法が理解できる 10.共同研究のあり方が理解できる

科目名	ディプロマ・ポリシー	主要授業科目	【1. 高度な理解力と幅広い知識】	【2. 国際的なコミュニケーション能力と協働力】	【3. 豊かな人間性と高い倫理観】	【4. 実践的な研究能力】	科目の教育目標
			専門的知識に基づいて、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。	最先端の専門的技術を有し、チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに、国際化時代のグローバル・リテラシー(対話・情報・科学等)を修得している。	豊かな人間性を持った社会性のある医療人として、生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し、豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。	医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し、課題の探求と、創造的・開発的な実践的研究能力を修得している。	
		看護アウトカム管理学特論Ⅱ	○	○	◎	○	1.アウトカム管理の本質と特徴を理解する。 2.アウトカム管理の視点からみた保健医療福祉の動向を理解する。 3.地域・在宅・助産所・施設など看護実践の場におけるアウトカム管理の実態および課題を精神疾患・心疾患・糖尿病などの事例を用いて理解する。 4.看護に関連するアウトカム管理の諸理論や管理技法を実践に即して理解し探求する。 5.看護の質向上に寄与するアウトカム管理に関する研究技法を探索する。
		看護アウトカム管理学演習	○	○	○	○	大学院生の関心領域を中心に、看護管理学におけるさまざまな課題に焦点をあて文献検討ができる。 看護の質を高めるための看護実践の諸要素を研究を通して理解できる。
		リハビリテーション看護学特論Ⅰ	○	◎	◎	○	人々が健康な生活を維持するために看護職の果たす役割を見出す
		リハビリテーション看護学特論Ⅱ	○	◎	◎	○	在院日数が短縮化される動きのなかで、病気や障害により健康生活の破綻をきたし医療的治療が必要な患者の重篤化を回避するためのモニタリングや評価方法を理解するとともに、退院後の生活を見据えたトータルなかわりや回復支援のためのケア方法が理解できる。
		リハビリテーション看護学演習	○	◎	◎	○	在院日数が短縮化される動きのなかで、療養回復支援が必要な対象者の健康上の問題や課題と、それに対する看護介入に関する文献を精読し、研究への応用について討議する。
		生活調整特論		◎	○	○	脳神経疾患患者を中心に疾患や障害を持った人々に適応される医療・福祉の制度や体制とその革新方法、および治療や療養環境・地域支援など、質の高い生活にむけて調整する方策や活用について理解し活用できる。
		脳神経看護学特論Ⅰ		◎	○	○	脳神経患者とその家族に対して卓越した看護を実践する上で基盤となる主要理論・概念とその活用について探求し、活用できる。
		脳神経看護学特論Ⅱ		◎	○	◎	脳神経疾患患者と家族の生活の再構築という視点に立った予防、重症・救急に伴う専門的看護支援、自己管理支援、リハビリテーション看護などに関する支援技術やその開発について探求し、活用できる。
		脳神経看護学演習		◎	○	◎	1.脳卒中の発症予防、重症・救急に伴う専門的看護支援、自己管理支援、回復促進看護などに関する支援技術やその開発について探求できる。 2.神経疾患を原因とした運動機能の病態、アセスメント、悪化予防支援などに関する支援技術やその開発について探求できる。
		脳神経看護学実習Ⅰ		○	○	◎	1.複雑な健康問題をもつ患者とその家族に対して、質の高い卓越した看護を提供するために必要な、高度な知識と臨床判断、技術力の習熟を目指す。また脳神経領域のチーム医療が十分機能し活性化するための高度実践看護職の役割をまなび、必要な問題解決力や調整力、指導力を養う。 2.脳神経看護の分野において、専門看護師に期待される役割である実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究について実践できる。
		脳神経看護学実習Ⅱ		○	○	◎	脳神経看護実習Ⅰおよび脳神経治療援助論実習Ⅰ・Ⅱの学習をもとに、自らの関心領域について、より質の高い看護実践力を養うことができる。 また、脳神経看護専門看護師として、病院地域における連携、チーム医療の実践方法がわかる。 さらに、専門看護師としての役割開発を実践するチャレンジ精神を養うことができる。
		脳神経治療援助論実習		○	○	◎	脳神経疾患の基本的な医学的評価・判断に基づく薬物治療や医療処置の管理について、実践を通してわかる。
		がん看護学特論Ⅰ	○	◎	○	◎	1.がんの治療・療養過程にある患者や家族に適用できる看護理論の特徴と有用性について理解する。 2.がん看護領域における主要な理論(危機理論、ストレスコーピング、セルフケア理論、悲嘆など)の主要概念や前提、特徴を理解する。 3.主要な理論を看護現象に適用し、その有用性や限界を考察できる。 4.がん看護に関する新しい理論や概念の生成に関する文献をクリティカルし、有用性を考察できる。
		がん看護学特論Ⅱ	○	◎	○	◎	1.がんリハビリテーション看護の概念と目標を理解できる 2.肺がん治療による器質的機能的変化と生活への影響を理解し、日常性回復のための援助について考察できる 3.消化器がん治療による器質的機能的変化と生活への影響を理解し、日常性回復のための援助について考察できる 4.子宮がん治療による器質的機能的変化と生活への影響を理解し、日常性回復のための援助について考察できる 5.頭頸部がん治療による器質的機能的変化と生活への影響を理解し、日常性回復のための援助について考察できる 6.乳がん治療による器質的機能的変化と生活への影響を理解し、日常性回復のための援助について考察できる 7.緩和ケアが主体となる時期の患者に対するリハビリテーションの目的とその特徴を説明できる 8.がんリハビリテーションを促進するための看護ケア提供者としてのあり方について考察できる

科目名	ディプロマ・ポリシー	主要授業科目	【1. 高度な理解力と幅広い知識】	【2. 国際的なコミュニケーション能力と協働力】	【3. 豊かな人間性と高い倫理観】	【4. 実践的な研究能力】	科目の教育目標
			専門的知識に基づいて、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。	最先端の専門的技術を有し、チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに、国際化時代のグローバル・リテラシー（対話・情報・科学等）を修得している。	豊かな人間性を持った社会性のある医療人として、生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し、豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。	医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し、課題の探求と、創造的・開発的な実践的研究能力を修得している。	
	がん看護学特論Ⅲ	○	◎	○	◎		<ul style="list-style-type: none"> 1.がん看護専門看護師に期待される6つの役割について理解できる 2.がん治療（手術療法、薬物療法、放射線療法）の原理と生体侵襲を理解し、エビデンスに基づいた看護ケアの意義を説明できる 3.がん治療・療養の意思決定過程を理解し、事例分析を通して支援のあり方を考察できる 4.緩和ケアの概念と援助方法について説明できる 5.在宅における緩和ケアの特徴を理解し、事例分析を通して支援のあり方について考察できる 6.がん患者を地域につなぐ調整・相談支援について理解し、がん看護専門看護師の役割について説明することができる 7.がんチーム医療の実際を知り、チームにおけるがん看護専門看護師の役割を考察できる
	がん看護学特論Ⅳ	○	◎	○	◎		<ul style="list-style-type: none"> 1.がん薬物療法の目的と治療過程を理解できる 2.抗がん剤の安全な取り扱いとリスク管理について説明できる 3.急性の副作用症状とその対応方法について説明できる 4.主要な有害事象の機序と予防・対応方法を理解し、セルフケア支援について説明できる 5.主な疾患の標準的治療と治療効果について説明できる 6.がん薬物療法を受ける患者の意思決定支援について、事例分析を通して考察できる
	がん看護学演習	○	◎	○	◎	○	<p><がんリハビリテーション看護></p> <ul style="list-style-type: none"> 1.がんリハビリテーション看護のbest practiceについて説明できる 2.がんリハビリテーション看護に関する研究論文についてEBPの視点からクリティークすることができる 3.がんリハビリテーションの観点からリンパ浮腫予防のための看護支援について説明できる 4.がん患者に発生するリンパ浮腫の機序と対応方法について説明できる 5.リンパ浮腫に対する予防指導および複合的治療の基本技術を実施できる 6.がんリハビリテーションを促進するためのがん看護専門看護師に役割を考察できる <p><がん薬物療法看護></p> <ul style="list-style-type: none"> 1.がん薬物療法看護のbest practiceについて説明できる 2.がん薬物療法看護に関する研究論文についてEBPの視点からクリティークすることができる 3.がん薬物療法を受ける患者に対するコンサルテーションの特徴と進め方が説明できる 4.がん薬物療法を受ける患者に対する倫理調整の特徴と進め方が説明できる 5.がん薬物療法を受ける患者に対するコーディネーションの特徴と進め方が説明できる 6.がん薬物療法を受ける患者に対するケア改善に向けて提案できる
	ストレス緩和ケア看護学演習	○	◎	○	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ①ストレス緩和ケアに関する看護の課題について、論理的、科学的な方法により追求する方法を学習する。特に、文献を批判的に読み活用する力を養う。②①を通して、自己の研究課題と方法論の明確化に繋げる。
	がん看護学実習Ⅰ	○	◎	◎	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> 1)複雑な健康問題を抱えるがん患者の身体的、心理的、社会的およびスピリチュアルな健康問題をアセスメントできる。 2)看護の知識・技術とケアの知識を用いて、エビデンスに基づいた高度な看護実践を行うことができる。 3)がん患者・家族のケアに看護理論を活用できる。 4)看護チームと連携し、周囲の医療者を巻き込みながら、効果的な看護実践ができる。 5)家族のニーズや危機状況をアセスメントし、危機回避や悲嘆過程の促進を目指した看護を実践できる。 6)患者・家族がよりよい医療やケアが受けられるようコンサルテーションやコーディネーションを行うことができる。 7)care&cureを統合した高度実践看護師としての役割拡大について探求できる。
	がん看護学実習Ⅱ	○	◎	◎	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> 1)がん看護専門看護師としての、高度な看護実践について学ぶ。 2)がん看護専門看護師としての、スタッフに対する教育方法・内容、企画運営方法について理解できる。 3)がん看護専門看護師としての、スタッフが直面している看護上の問題やがん患者の問題解決方法などのコンサルテーション方法について理解できる。 4)がん看護専門看護師としての、がん患者に対するよりよい医療の提供のための多職種間の調整方法について理解できる。 5)がん看護専門看護師としての、研究への取り組みや研究活動について理解できる。 6)がん看護専門看護師としての、がん患者の人権擁護の姿勢や医療チームにおける倫理調整の方法について理解できる。 7)がん看護専門看護師として、医療現場における開発的役割をとるための自己研鑽や能力開発の在り方について考察できる。 <p>※がん看護学実習Ⅰでの課題等を踏まえて具体的に目的・目標を定めること</p>

科目名	ディプロマ・ポリシー	主要授業科目	【1. 高度な理解力と幅広い知識】	【2. 国際的なコミュニケーション能力と協働力】	【3. 豊かな人間性と高い倫理観】	【4. 実践的な研究能力】	科目の教育目標
			専門的知識に基づいて、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。	最先端の専門的技術を有し、チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに、国際化時代のグローバル・リテラシー(対話・情報・科学等)を修得している。	豊かな人間性を持った社会性のある医療人として、生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し、豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。	医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し、課題の探求と、創造的研究能力を修得している。	
看護学領域	がん看護学実習Ⅲ	○	◎	◎	◎	○	1) 高度実践看護師としての高度な知識・技術と診療の知識・技術を基に、複雑な問題をもつがん患者に対して高度な臨床判断ができる。 2) より複雑で解決困難な問題をもつがん患者・家族に対して、ケアとキアを統合した知識・技術を駆使して、看護実践を展開することができる。 3) チーム医療が効果的に働くよう、他職種と連携した支援の調整ができる。 4) がん患者の治療・療養をめぐる倫理的問題や倫理的ジレンマを見極め、倫理調整することができる。 5) 患者に対する看護がより効果的に提供できるよう、現場の看護スタッフと協議し改善に向けた教育的働きかけができる。 6) 看護職者を含むケア提供者に対して、コンサルテーションを行うことができる。 7) 地域医療連携部門における退院調整やがん相談などの実際と課題について理解することができる。 8) がん患者の治療施設から地域へ円滑に移行できるよう、地域医療連携部門と連携し、退院を調整することができる。 9) 他職種を含めたカンファレンス、事例検討会を企画・開催することができる。 10) がん看護専門看護師の立場から、地域医療連携の在り方を考察できる。
	がん治療援助論実習	○	◎	◎	◎	○	1) がん治療の指導のもと、がん患者の診察を行い、フィジカルアセスメントの技術を修得することができる。 2) 診察結果や検査所見から医学診断し治療方針を導く実践思考過程を理解できる。 3) 各治療過程にある患者の有害事象や合併症予防など医学的身体管理方法を理解し、患者の症状や兆候のアセスメントができる。 4) 治療の効果判定方法を理解し、治療効果の評価ができる。 5) がん治療が患者の生活に与える影響を病態生理学的、臨床薬理学的、がん治療学的視点から解釈・理解し、医療チームが連携した安全かつ効果的な支援方法を検討できる。 6) 各治療完遂あるいは効果的な治療遂行のための高度実践看護師の役割開発について考察できる。
	地域看護学特論Ⅰ	○	◎	○	○	○	地域で働く看護職に共通して必要である、個人・集団および組織、コミュニティに関する概念・理論を学習し、地域における看護職の役割が見いだせること、地域における様々な対象への効果的な支援方法が考えられることを到達目標とする。
	地域看護学特論Ⅱ	○	◎	○	○	○	地域における活動技術について理解できる。 地域における活動の課題について理解できる。 今後の地域における活動の方向性について考えることができる。
	地域看護学演習	○	○	○	○	◎	地域看護学の視点から履修者の関心のあるテーマで研究計画書を作成することができる。
	小児看護学特論Ⅰ	○	◎	○	○	○	1. 子どもと家族の健康問題を考えるうえでの主要概念を理解できる。 2. 小児看護に関連する理論について理解できる。 3. 子どもと家族の健康問題について国内外における主要な課題を考察できる。
	小児看護学特論Ⅱ	○	◎	○	○	○	1. 子どもの発達段階、健康レベルに応じた効果的な看護援助を行うためのアセスメントおよび援助方法について理解できる。 2. 子どもと家族を取り巻く医療、福祉、教育の連携の在り方について考察できる。
	小児看護学演習	○	○	○	○	◎	理論や文献を活用して関心のある領域における子どもと家族の健康問題について課題を明らかにし、課題解決、看護援助を考察できる。
	学校保健学特論Ⅰ	○	◎	○	○	○	児童・生徒の健康・保健問題を教育の視点から考察することによって、学校保健の意義や教育実践のあり方を理解する。
	学校保健学特論Ⅱ	○	○	○	◎	○	学校保健領域における養護実践のあり方を理解し、実践事例における養護活動の構造を論理的に説明することができる。また養護実践の基盤となる看護技術及び理論の活用について、自ら思考する能力を養う。
	学校保健学演習	○	○	○	○	◎	学校保健領域における事象を、論理的に説明する事ができる。またそのための関連領域の理論や、統計手法及び質的分析法を用いた検証方法について理解する。
	学校保健学実習	○	○	○	○	◎	児童生徒の健康と発育の実態を理解し、学校教育における健康課題の本質を的確に見極め、科学的根拠をもとにそれらの課題の解決のための方策を探索する。
	精神看護学特論Ⅰ	○	◎	○	○	○	1. 精神看護学の実践の基盤となる理論や概念を学び、それを基盤に患者理解を深める。 2. 実践場面で出会う主な精神疾患の診断(IODおよびDSM)と病態、最新の治療法を理解する。
	精神看護学特論Ⅱ	○	◎	○	○	○	1. 精神保健看護の歴史と現状の理解を深め、看護実践への活用方法、課題を検討できる。 2. 精神看護に関連する理論と概念を活用し、精神疾患をもつ人と家族のアセスメント、看護援助を検討できる。 3. 地域ケアに関連する理論と概念を学び、精神疾患をもつ人と家族のもつる力を尊重した看護援助が検討できる。
	精神看護学演習	○	○	○	◎	○	理論や文献を活用して、学生自身が関心がある領域における精神疾患をもつ人と家族の健康問題について課題を明らかにし、看護援助を考察できる。
	地元創成看護学特論Ⅰ	○	◎	○	○	○	地元の特性や文化的背景を考慮した健康課題について明らかにする。また、地元の特長的な課題に対する看護とは何かについて考察することができる。

科目名	ディプロマ・ポリシー	主要授業科目	【1. 高度な理解力と幅広い知識】	【2. 国際的なコミュニケーション能力と協働力】	【3. 豊かな人間性と高い倫理観】	【4. 実践的な研究能力】	科目の教育目標	
			専門的知識に基づいて、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。	最先端の専門的技術を有し、チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに、国際化時代のグローバル・リテラシー(対話・情報・科学等)を修得している。	豊かな人間性を持った社会性のある医療人として、生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し、豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。	医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し、課題の探求と、創造的・開発的な実践的研究能力を修得している。		
専門科目	地元創成看護学特論Ⅱ	○	◎		○	○	社会との協働により、地元の自律的で持続的な創成に寄与する看護について、自ら思考する能力を養う。	
	地元創成看護学演習	○	◎	○	○	◎	地元固有の文化を含んだ健康課題に関する文献を通して、理論や統計手法および質的分析方法を理解する。また、履修者の研究テーマに関連するレビューを作成する。	
	支援看護学特別研究	○	◎	○	◎	◎	グローバルな視点で社会的課題や実践上の問題課題を多面的・多角的に捉え、自らそれを分析する能力とその解決のための課題設定能力と問題解決能力を有する。	
	支援看護学特別課題研究	○	○		○	◎	自らの関心領域において、研究課題を明確化し、研究目的に適した研究方法を用いてデータ収集・分析を行い、論文としてまとめることができる。	
	こころの保健学特論Ⅰ	○	◎	○	○	○	自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害、てんかん、不登校(ひきこもり)、虐待、被害障害などの事例における身体・心理・精神症状、ならびに行動上の問題が、家庭や学校における人間関係性の病理に基因するものであることを理解する。こころの問題を有する子どもだけを治療の対象者と考えるのではなく、子どもと相互関係にある人のかかわり方にも注意し、こころの問題を関係性の障害の視点からとらえ直す。関係性の変化がこころの問題の改善につながることを理解する。	
	こころの保健学特論Ⅱ	○	○				乳幼児期・児童思春期の精神発達に関する知識を習得し、実際の支援に生かせるようになる。	
	こころの保健学演習	○	○		○	○	心理的ケアや支援に必要な理論を習得し、実践に応用できるようになること。	
	臨床腫瘍保健学特論Ⅰ	○	○			◎	患者のQOLをpatient-reported outcome(PRO)評価に準じて検討する方法に精通する。	
	臨床腫瘍保健学特論Ⅱ	○	○			◎	がん患者のQOLをpatient-reported outcome(PRO)評価に準じて検討する方法を修得する。	
	臨床腫瘍保健学演習	○	○			◎	国際的に有名なpatient-reported outcome(PRO)-QOLを使用した研究論文(英文)を抄読し、議論し、がん患者のPRO-QOLを反映する方法に精通する。	
	保健学特別研究	○	○			◎	国際的に有名なpatient-reported outcome(PRO)-QOLを使用した研究論文(英文)を抄読し、議論し、がん患者のPRO-QOLを反映する方法に精通する。	
	ウイメンズヘルス・助産学特論	○	◎		○	○	ウイメンズヘルス領域/産婦人科学領域/助産学領域のエビデンスに基づく実践と研究の現状が説明できる。	
	ウイメンズヘルス支援看護学特論	○	◎	○	◎	○	・女性の健康問題を考える上での主要概念について説明できる。 ・課題解決に向けて理論・概念適用の有用性と限界が説明できる。	
	女性支援看護学演習Ⅰ		◎		○	○	・系統的な文献検索/検討からウイメンズヘルスに関わる課題が説明できる。 ・研究倫理について説明できる。 ・概念枠組み・研究枠組みの設定について説明できる。 ・ウイメンズヘルスに関わる問題や課題から研究課題を設定し、研究計画書や倫理審査書類等が作成できる。	
	ウイメンズヘルス支援看護学演習	○	◎	○	○	◎	・女性の健康問題を考える上での主要理論/概念について理解し、ウイメンズヘルスに関わる課題に適用することができる。 ・理論、モデル、概念について理解し、研究設計をたてることができる。既存の研究論文を適切に評価することができる。 ・研究結果を実践に適用する際の障壁について検討することができる。	
	周産期・生殖保健学特論	○	◎			○	1) 胎児期における環境が成人期の健康に及ぼす課題について説明できる。2) 妊娠・分娩・産褥期にみられた病態が周産期女性に及ぼす影響ならびにその後の疾患の発生に与える影響について理解できる。3) 不妊という病態が妊娠に与える身体的・精神的影響について理解できる。	
	周産期・生殖保健学演習	○	○				◎	胎児期から思春期、性成熟期、妊娠・分娩・産褥期、月経経期、老年期といったそれぞれのライフステージにおける健康問題の関連性について理解できる。
	助産学特論Ⅰ(助産概論)	○	◎	○	○	○	・助産の歴史・変遷、助産の倫理と意義や役割を理解し、プロフェッションとしての責務が説明できる。 ・助産教育の現状と世界的な動向を理解し、グローバルな視点から教育のあるべき姿を検討することができる。 ・助産ケアの基本となる理論・概念と実践への適用について説明できる。 ・助産実践の基準と助産ケアの質保証について説明できる。 ・助産とチーム医療について説明できる。 ・助産/助産師のあるべき姿について検討し述べることができる。	

科目名	ディプロマ・ポリシー	主要授業科目	【1. 高度な理解力と幅広い知識】	【2. 国際的なコミュニケーション能力と協働力】	【3. 豊かな人間力と高い倫理観】	【4. 実践的な研究能力】	科目の教育目標
			専門的知識に基づいて、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。	最先端の専門的技術を有し、チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに、国際化時代のグローバル・リテラシー(対話・情報・科学等)を修得している。	豊かな人間性を持った社会性のある医療人として、生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し、豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。	医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し、課題の探求と、創造的・開発的な実践的研究能力を修得している。	
		助産学特論Ⅱ(生命倫理学)	○	◎	◎		・生命科学と倫理について説明できる。 ・日本と諸外国における生命倫理の現状と倫理的課題について説明できる。 ・生殖医療と倫理について説明できる。 ・産科医療と倫理について説明できる。 ・助産師と生命倫理について説明できる。
		助産学特論Ⅲ(母性心理・社会学)	○	◎	○		・出産と家族ケアについて説明できる。 ・NICU・GCU・MFCUでの助産師の役割とその実際について説明できる。 ・周産期の心理的・社会的・文化的側面について説明できる。
		助産学特論演習Ⅰ	○	◎	○	◎	・系統的な文献検索/検討から母子保健並びに助産実践上の問題や課題を分析し、説明(明確化)できる。 ・研究倫理について説明できる。 ・母子保健並びに助産実践上の問題や課題から研究課題を設定し、計画書や倫理審査書類等が作成できる。
		助産学特論演習Ⅱ	○	◎	○	◎	・既存の母性・助産学研究に対して、批判的考察力と研究成果の活用について理解し、研究の動向と課題・展望について説明できる。 ・母子保健並びに助産実践上の問題や課題の背景が説明できかつ記述できる。 ・データ分析の妥当性と信頼性について説明できる。
		助産実践学Ⅰ(形態機能・病理病態学)	○	◎	○		・女性・助産の診断とケアに必要な生殖系系、関連ある内分泌、神経系の形態機能と生体生理について説明できる。 ・母子の健康と妊娠・分娩に伴う母体の変化について説明できる。 ・薬物の基本的知識と周産期への影響について説明できる。
		助産実践学Ⅱ(周産期医学)	○	◎	○		・女性のライフサイクルを通じての健康問題と薬物療法と薬理作用について説明できる。 ・周産期主要疾患・症候の病態・検査・診断と治療について説明できる。 ・新生児・乳幼児の病態・検査・診断と治療について説明できる。
		助産実践学Ⅲ(助産診断・実践学)	○	◎	○		・正常な妊娠の経過と診断指標・ケア(支援)について説明できる。 ・正常な分娩の経過と診断指標・ケア(支援)について説明できる。 ・正常な産褥の経過と診断指標・ケア(支援)について説明できる。
		助産実践学Ⅳ(地域母子保健学)	○	◎	○		・母子保健行政と母子保健サービスについて説明できる。 ・地域母子保健の動向について説明できる。 ・地域社会の動向(母子保健統計等)と母子保健・医療・福祉制度について説明できる。
		助産実践学Ⅴ(助産管理学)	○	◎	○		・助産業務の管理・運用の基本概念と関連法規について説明できる。 ・周産期医療体制と助産師の働き方について説明できる。 ・施設における助産管理について説明できる。
		助産実践学演習Ⅰ	○	◎	○		演習において、以下ができる。(助産学実習及び助産実践学実習Ⅰ・Ⅱで実践する) ・個人と集団への健康教育ができる。 ・各種受胎調助法を用いた家族計画指導ができる。 ・妊産婦・褥婦・胎児・新生児・乳児の健康診査と必要な検査・ケアができる。 ・正常分娩多期期の診断とケア(分娩介助含む)ができる。 ・様々な分娩様式に対応したケアができる。
		助産実践学演習Ⅱ	○	◎	○		演習並びにベッドサイドティーチングにおいて、以下ができる。 ・周産期リスクアセスメント方法について説明できる。 ・周産期の異常と検査・処置について説明できる。 ・正常分娩逸脱時の対処とケアについて演習で実践できる。 ・母児の救命救急法について実践でき、新生児救急蘇生法Aコースを取得することを目指す。
		助産実践学実習Ⅰ	○	◎	◎		・助産学実習での実践を基盤に、妊婦の定期健康診査を(自律して)実践することができる。 ・助産学実習での実践を基盤に、母乳外来・産後の健診(2週間健診、1か月健診)での診断とケアを(自律して)実践することができる。 ・母児に起こる合併症の早期発見、適時適切な医療援助の要請、必要な場合の救急処置を助産・医師と共に実践することができる。 ・MFCU入院妊婦の健康のアセスメントと治療・日常生活上のケアを実践することができる。 ・NICU入院児の健康のアセスメントと治療・日常生活上のケア(の一部)を実践することができる。 ・GCU入院児の健康のアセスメントと治療・日常生活上のケア(の一部)を実践することができる。 ・周産期医療における産科・新生児科相互の協力体制と助産師の役割並びに公認心理師/臨床心理士や患者支援センターとの連携の重要性について理解できる。 ・助産所で活動する助産師の責務と女性や家族から期待されている活動とその在り方が理解できる。 ・地域における産後ケア事業の実習を通して、地域の社会資源の活用や調整の重要性が理解できる。
		助産実践学実習Ⅱ	○	◎	◎		※到達レベルは実習要項参照 ・継続受け持ち事例を通して乳児期までの診断とケアを実践することができる。 ・離乳食クッキングクラスにおいて、乳児の健康アセスメントや離乳食の調理の実際を学び乳児期の集団指導ができる。 ・産後ケア事業等を通して、母子の健康のアセスメントと利用可能な社会資源について理解できる。 ・産褥期の保健指導・相談に必要な基本的な知識と技術を修得し、具体的な指導(性教育、命の教育)・相談を展開することができる。
		助産実践学実習Ⅲ	○	◎	◎		・臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラーの指導のもと、相談者の同意を得て相談の場に加わり、NPT受検前の説明を行うことができる。 ・基本的面接技法や意思決定支援が理解できる。 ・不妊専門医、不妊カウンセラーの指導のもと、相談者の同意を得て治療や相談の場に陪席し、必要な支援が理解できる。

科目名	ディプロマ・ポリシー		主要授業科目	【1. 高度な理解力と幅広い知識】	【2. 国際的なコミュニケーション能力と協働能力】	【3. 豊かな人間力と高い倫理観】	【4. 実践的な研究能力】	科目の教育目標
	ディプロマ・ポリシー	ディプロマ・ポリシー		専門的知識に基づいて、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。	最先端の専門的技術を有し、チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに、国際化時代のグローバル・リテラシー（対話・情報・科学等）を修得している。	豊かな人間性を持った社会性のある医療人として、生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し、豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。	医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し、課題の探求と、創造的・開発的な実践的研究能力を修得している。	
	助産学実習		○	◎	○	◎		<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期の診断とケアが実践できる。 ・分娩期の診断とケアが実践できる。 ・産褥期の診断とケアが自律して実践できる(分娩後から産褥入院中)。 ・新生児の健康診査とケアが自律して実践できる(出生直後から退院までの診断とケア) ・母乳外来・産後の健診(2週間健診、1か月健診)が実践できる。 ・母親ならびに家族への個別指導、集団指導ができる。 ・不妊、更年期という状況にある女性の身体的・精神的・社会的問題を理解し、診療の補助と必要とされるケアができる。 ※到達レベルは実習要項参照
	助産学特別研究		○	○		○	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・助産実践上/社会的課題の構成要素を説明できる。 ・研究プロセスに沿って研究を遂行し論文を作成する。 ・研究を通して得られた成果を学位論文としてまとめることができる。
医用情報科学領域	先端医用画像情報学・先端数理統計学		○	◎	○		◎	パターン認識の数理を学び、理解する。機械学習を医用画像・医用情報へ応用するための代表的な手法を学び、理解する。
	先端医用画像情報学・先端数理統計学演習		○	◎	○		◎	研究論文や大学院レベルの英文教科書を精読し、その内容を理解する。自らの研究に応用する/発展させる。
	先端医用画像機器工学		○	◎	○			医用画像機器の原理に用いられる物理と数理を理解できる。強度変調放射線治療計画の数理を理解できる。
	先端医用画像機器工学演習		○	◎	○		○	先端医用画像機器工学に関する論文を読み、発表・討論を行うことができる。
	核医学治療・核化学		○	○			◎	核医学治療、放射化学及び分析化学の基礎概念を確実に理解し、核・放射化学的な先進的な研究シーズを発掘することができる。
	核医学治療・核化学演習		○	○			◎	核医学治療、核・放射化学の研究域における基礎から応用に広がる先進的な研究に触れ、自らの研究テーマに役立つシーズを作り上げることができる。
	放射線障害分子医学		○	◎			◎	放射線生物作用の基礎的現象・理論、最近の放射線生物学研究の成果とその意義、および放射線治療に関する放射線生物学的事項および保健物理学的事項について説明し、議論できる。
	放射線障害分子医学演習		○	◎			◎	英文論文を読み、理解し、問題点をまとめ、発表討論できる。
	脳機能画像解析学			○		○	◎	神経科学の基礎を説明することができる。脳機能計測装置の測定原理を説明することができる。脳機能の解析方法を説明することができる。
	脳機能画像解析学演習			○		○	◎	脳機能画像解析ソフトウェアの処理内容が理解できる。脳機能画像解析ソフトウェアを使いこなすことができる。脳機能画像解析ソフトウェアを研究に役立てることができる。
	放射線腫瘍学・放射線治療物理学		○	◎			○	放射線治療の対象となる疾患や病態とその治療法を理解し、適切な治療計画を作成できる。
	放射線腫瘍学・放射線治療物理学演習		○	◎			○	放射線治療装置の操作、3次元放射線治療計画が施行できる。
	医用画像解析学		○	◎		○	○	種々の画像影響因子を理解する。各臓器に特異的な各種撮影手法および解析手法を理解する
	医用画像解析学演習		○	◎		○	○	臨床画像における病態解析に有用な情報の識別方法、検査手法につき理解する
	代謝・機能画像情報解析学		○	◎			○	最近の機能検査と代謝評価の方法と機序について説明できる。
	代謝・機能画像情報解析学演習		○	◎			◎	実際のデータ等を利用して、画像情報から代謝および機能情報を抽出し、可視化する方法を習得する。
	先端医用画像評価学			◎			○	さまざまなモダリティで得る画像に対する、 1. 物理的な評価法を説明できる。 2. 視覚的な評価法を説明できる。 3. 画像の特性を把握したうえで、診断に役立つ画像に必要なことは何か説明できる。
	先端医用画像評価学演習			○			◎	講義で修得したものを発展させる。
医用情報科学特別研究		○	○	○	○	◎	医用情報科学領域の研究課題に主体的に取り組み、修士論文を作成し、研究内容を説明できる能力を修得させる。	
生体機能解析学特論		○	◎	○	◎	○	内分泌代謝疾患における病態の解析や新規治療法開発に関する研究課題に取り組み、研究内容を理解・議論できる医療技術者を養成する。	
生体機能解析学演習		○	◎	○	○	○	ホルモンおよび代謝異常症に対する基礎および臨床研究に取り組み、新しい臨床検査技術や診断法の基礎的技術を理解する。	

科目名	ディプロマ・ポリシー		主要授業科目	【1. 高度な理解力と幅広い知識】	【2. 国際的なコミュニケーション能力と協働力】	【3. 豊かな人間性と高い倫理観】	【4. 実践的な研究能力】	科目の教育目標
				専門的知識に基づいて、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。	最先端の専門的技術を有し、チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに、国際化時代のグローバル・リテラシー（対話・情報・科学等）を修得している。	豊かな人間性を持った社会性のある医療人として、生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し、豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。	医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し、課題の探求と、創造的・開発的な実践的研究能力を修得している。	
医用検査学領域	分析医化学特論	○	◎	○	○	◎	病態発症の生化学的現象について理解し、分子メカニズムと形態変化を評価できる新しい診断法、治療法の開発に関する知識を修得する。	
	分析医化学演習	○	◎	○	○	◎	腎疾患および血管病変について研究論文を読み、討論を行い、新規性のある研究計画を立て基礎研究に取り組む能力と技術を修得する。	
	病理解析学特論	○	◎				病気の原因と発生機序について細胞レベル、組織レベル、個体レベルの変化と関連させて理解できることを目標とする。	
	病理解析学演習	○				◎	病理形態学的研究の基礎知識を得ると共に、新しい病理組織学的検査法の評価や病理解析における意義を知ることが目標とする。	
	細胞・免疫解析学特論	○	◎	○	○	◎	臨床・研究で活用できる細胞・免疫解析学の専門的知識・免疫学的解析法や遺伝子診断法の基礎的技術を理解する。	
	細胞・免疫解析学演習	○	○	○	○	◎	細胞・免疫解析学の専門的知識および基本的な解析法を理解し、さらに研究の進め方や発表・討論能力を養う。	
	微生物・遺伝子解析学特論	○	◎	○	○	○	主要な病原細菌の病原遺伝子発現機構および遺伝子検査法の原理について理解し、新しい臨床検査技術開発のための知識を修得する。	
	微生物・遺伝子解析学演習	○	◎	○	○	○	細菌の病原性および遺伝子検査に関する国際的な研究論文を読み、感染制御・遺伝子検査に関する研究方法について理解する。	
	生殖補助医療学特論	○	◎		○	○	不妊症について、その原因、診断、治療法が説明できる。受精現象について説明できる。生殖補助医療を実施するために必要な培養法、凍結保存法、顕微授精法に関する基礎知識を理解している。生殖生理と関連する内分泌について説明できる。	
	生殖補助医療学演習	○	○			○	◎	仮説を立て、研究計画を立案できる
	腫瘍制御学特論	○	○				◎	悪性腫瘍の生物学的特性(発症・浸潤・転移など)の基本的知識を修得し、その知識に基づいた悪性腫瘍の新しい診断及び治療法の開発を目指す。
	腫瘍制御学演習	○	○				◎	悪性腫瘍の生物学的特性や新しい診断及び治療法について書かれた英語論文を読み、議論し、さらに効果的な診断法や治療法を考案し、治療計画を作成する能力を身につける。
先端医療技術・支援学特別研究	○	○		○	○	○	高度化した疾病の診断や病態解析を行う高度専門家教育を目標とする。	
医学物理学関連科目	医用情報科学領域	放射線治療品質管理学特論	○	◎			○	放射線治療に用いられる高エネルギー放射線の精度管理に関する知識を修得する。
		医用物理学特論Ⅰ	○	◎	○		◎	1. 放射線科学における電磁気学の重要性を理解する。 2. 電磁気学の標準的な問題を解くことができる。 3. これまで学んだ学問を、より深い視点から眺めることができる能力を獲得する。
		医用物理学特論Ⅱ	○	◎	○		◎	1. 放射線科学が量子力学の基盤に立っていることを理解する。 2. 量子力学の標準的な問題を解くことができる。 3. これまで学んだ学問を、より深い視点から眺めることができる能力を獲得する。
		医用物理学特論Ⅲ	○	◎	○		◎	1. 放射線科学が熱統計力学の基盤に立っていることを理解する。 2. 熱統計力学の標準的な問題を解くことができる能力を身につける。 3. これまで学んできた様々な学問を、より深いレベルから眺められる視点を獲得する。